

## 2012年夏・「MV22 オスプレイ」配備をめぐる岩国の動き 空飛ぶ恥！オスプレイを、岩国・沖縄はもちろん、 日本中どこへも飛ばせない。

2012年10月 田村順玄（「リムピース」共同代表・岩国市議）

私は先の戦争が終わる3日前に旧中国で生まれ、あれから67年目の夏が来た。これまで岩国基地とともに過ごしてきた66年間であったが、とりわけ今年は数々の話題の中でも大きな課題となっている「MV22オスプレイ」で揺れる岩国の夏とめぐり合わせた。私はいまこの瞬間、こうした難題と真っ正面から立ち向かい、さらに果敢に取り組みを強めて行きたい！何としてもイワクニから、この「空飛ぶ恥・オスプレイ」の日本配備と沖縄への送り込みを阻止する取り組みを強めていきたい。

そんな思いに馳せる2012年夏、イワクニからの報告である。

### ☆ひとりだけ、基地入場を拒否された私☆

5月5日の「こどもの日」、岩国基地では日米親善デーと称し米海兵隊岩国基地が開放される。1年で1回だけ一般市民の入場が許されるこの日、岩国基地へは全国から多くの人々が訪れる。今年の日米親善デーには実に28万人が入場したと基地側の発表があった。私も係わっている「ピースリンク広島・呉・岩国」のメンバー、毎年この行事で集まる入場者に反基地を訴えるチラシを配付し街頭宣伝を行っている。

今年も用意した3千枚余のビラを配付し、空母艦載機移転や1.4倍に拡張され滑走路移設事業で大きくなった基地が、爆音被害の軽減にはつながっていない現実など、特に今年はこの話題に加え「オスプレイ」の配備について強く訴えた。そんな「蜂のひと刺し」の如き私たちのこうした行動に、エールを送る人々の姿もたくさん有り勇気が沸いてくる街宣行動だ。

その基地開放行事に、たった一人だけ米軍から入場を拒否された市民がいる。それは私「田村順玄」であるが、昨年9月に開催された海上自衛隊の公開行事の際、基地内に入場した直後に自衛隊から退出を求められ3時間のすったもんだの末退出を余儀なくされた。米軍に間借りしている海上自衛隊が米海兵隊側から「田



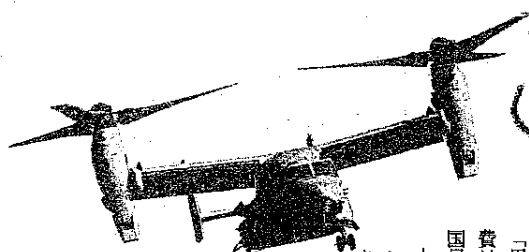
村順玄の入場を認めない」という達しが有るから、拒否するというのだ。

さて今年の基地開放ではどう扱われるか、ビラ配付行動にさきがけて米軍側の動きを確かめるため入場の実験を試みた。取材のマスコミ各位も多数同行し、一目何千人とごった返す入場門を10分以上かけて入口に近づくと、米軍敷地にかかった途端十人をはるかに越える警備要員に取り囲まれその位置から入場を阻止された。身分の確認もしないのに、「田村さんの入場を米軍は拒否します」という趣旨の通告で何の理由の説明もしないで私の入場は今回も拒否された。

後日私は米連邦政府の情報公開手続きである「FOIA」で、入場拒否に至った関係書類の開示を求めた。一ヵ月後、米軍FOIAの担当部局から届いた書類では改めて拒否の理由は一切回答されず、「米軍側は入場を拒否することが出来る」という数行の項目があっただけだった。結局、20年近く在日米軍の秘密をあばき続け活動を続けている「リムピース」の存在が目上のコブであるという米軍の本性を、ここに見たと言う感じの今年の「日米親善デー」の一コマである。

その後も私への岩国基地入場拒否は続き、つい先日9月16日開催の「2012年海上自衛隊基地祭」も入場を認めたくないため厳重な入門チェックが実施された。予め入門の可否を市議会質問で打診したところ自衛隊側はすべての責任を米軍に委ね回答すら回避した。いまさら平和憲法の本旨から逸脱した軍隊である自衛隊の本質を見た。

### ☆岩国基地沖合移設と絡んだオスプレイ配備☆



基地拡張工事が  
完成したら...

次に来るのは「MV22オスプレイ」？  
岩国基地はアジアの要に！

岩国基地開放デーにお越しの皆様！これから基地に入られ、どう感じられるか、少し私たちの情報も参考にし、見学しませんか。岩国基地は四年前から、「大拡張工事」を実施しています。二百十四歳の海を埋め立て、滑走路を千代沖に出す計画です。その上、前面には深さが13mという大軍港も作られています。一昨年から、新港の県営港には米軍のチャーター船が度々入りますが、やっぱり自前の岸壁も作らせているのです。「思いやり予算」と呼ぶこの経費は、すべて日本政府の負担、国民の税金です。今年までに約九百八十五億円が投入されています。他にも、今日見学されるスポーツ施設や娯楽施設などへも、別に八百億円余りが使われています。沖繩に、新しい基地建設の動きがありますが、空中給油機は岩国に引越す事が決まっています。それだけではありませぬ。新しい沖繩の基地で使用する航空機は

「MV22オスプレイ」と呼ぶヘリコプターに変わる新型機です。この飛行機はまだ開発中ですが、先月8日にも事故を起こし、これまでに15機製造して三機墜落、26人が犠牲になるという危険極まりないものです。海兵隊は8年後、「オスプレイ」を24機「沖繩」に配備すると言っています。それは丁度、岩国基地の拡張工事が完成する頃、岩国が大変重要な「オスプレイ」の訓練基地となることは間違いないでしょう。岩国基地を今以上に機能強化する事には、皆で「ノー」を突きつけましょう。基地のない平和な岩国をつくりましょう。

オスプレイ	15.5m
エンジン	11.5m
機体	5.4m
機翼	17.5m

・最高飛行速度 565km/時  
・輸送能力 兵員24人  
・航続距離 950km  
・「沖繩から朝鮮への自力展開も可能」(海兵隊)  
・製造費 1機400万円(オスプレイとはタカ料の倍の大きさのこと)

話を元に戻すが、12年前の2000年5月5日の「日米親善デー」で当時配った大変興味深いB5判のチラシが一枚手元に残っている。『基地拡張工事が完成したら・・・次に来るのは「MV22オスプレイ」岩国基地はアジアの要に！』この見出しの後本文が続く。『新しい沖縄の基地で使用する航空機はMV22オスプレイと呼ぶヘリコプターに変わる新型機です。この飛行機はまだ開発中ですが先月8日にも事故を起こし、これまでに15機製造して3機墜落、20人が犠牲になるという危険極まりないものです。海兵隊は8年後、オスプレイを24機「沖縄」に配備すると言っています。それは丁度、岩国基地の拡張工事が完成する頃、岩国が大変重要な「オスプレイ」の訓練基地となることは間違いないでしょう。』（2000年5月5日）

そのチラシに書かれていた2008年からさらに4年後の今回、やっと米軍はオスプレイを沖縄に配備すると日本政府に「接受通報」をおこなったが、12年前に私が配ったこのチラシが今の状況と驚くほど一致していることに改めてビックリ。2008年と言えば例えば、岩国基地の沖合移設事業だって完成は3年遅れ、オスプレイも事故を繰り返し飛行が禁止されていた。

こうした中でやっと、この度の日本へ強行配備という事態になったことを考えれば、この当時の私達のチラシが予告したオスプレイ配備の日程が岩国基地の沖合移設事業などと密接に絡み合った計画的な企みでありその指摘が本当であったことがわかる。

### ☆オスプレイ、岩国基地に陸揚げに600人で抗議行動☆

7月23日早朝、5万トンを超える巨大な米軍MSCのチャーター船「グリーンリッジ」が岩国基地沖に現れた。前日韓国の「プサン港」を出港し関門海峡をくぐって9時間、予定どおり午前5時過ぎには米軍の専用岸壁に接岸したグリーンリッジは、早速陸揚げを開始した。上空には取材のヘリコプターが何機も飛び、陸上からは知る術も無い状況が報道記者などから刻々と伝わり、事態の進展が明らかになっていった。

午前4時頃から、続々と配備反対を訴える多くの人々がグリーンリッジの見える対岸土手に集まりはじめた。当日の陸揚げ阻止を訴える「7・13オスプレイ陸揚げ・配備阻止岩国大行動」実行委員会のメンバーを中心に、全国から集まった多くの人々の姿がそこにあった。実行委員会が準備した海上抗議行動のゴムボート船団も、早朝から海上に繰り出した。陸上からは抗議船団へ激励の声が送られ、米軍へも「オスプレイ帰れ！」の大合唱が絶え間なく続けられた。

現場海域は厳しい米軍の水域制限が掛かっており、ゴムボートも港に近づけない、その上全国から動員した海上保安庁の巡視船や艦艇が厳しく取り締まる。私もゴムボート船団の指揮船として地元で借り上げた小型舟に乗り込み、海上行動に参加してその先頭に立った。抗議の声に励まされた抗議船団は2時間以上周辺海域でのアピール行動を繰り広げ、その模様はリアルタイムに全国へテレビ中継され、翌日の新聞紙面でも大きく報道された。その間も、グリーンリッジからは1時

間に1機の割合でオスプレイの陸揚げが続き、同日夕刻には12機すべての陸揚げを終了した。グリーンリッジは同じ日の夕刻、慌ただしく沖縄・那覇軍港へ向け岩国基地を後にした。

陸揚げ2日後の7月25日、オスプレイは早速エンジンを掛け白いオイルの煙りを上げながらローターを回転させた。オスプレイと一緒に岩国基地に来た整備要員やパイロットは、岩国基地での試験飛行のチャンスを伺い目下待機している。

あれから2ヵ月近くが経過した。森本防衛大臣は2度・3度と岩国市を訪問し、最初から仕組みられた「機体の構造的な欠陥は無かった。モロッコやフロリダでの事故は全て人為的な操縦ミスである。」という日本政府の行った検討結果を報告し幕引きを迫っている。しかし、「オスプレイ」という類まれな欠陥機は今更国民に認知されるような航空機ではなく、悪名高いオートローテーション機能の欠如など子供から老人まで理解して世間話でも忌避されている実態である。

防衛省は独自の検証チームを組織して4月のモロッコ事故と6月のフロリダ事故を何とか機体の欠陥ではなく操縦士の人為的なミスで納めようとする事故検証報告書をまとめあげた。そして日米合同委員会の協議結果をもって森本大臣は都合4回の岩国入りを行い岩国市長に説明を重ねた。

しかし所詮これは机上の空論で、オスプレイの安全性が確実に担保され保証されたものではなかった。9月19日、岩国市役所を訪れた森本大臣に福田岩国市長は最後まで岩国基地での準備飛行の実施に容認の答弁を伝えず、結局国側の一方的な通告という形で準備飛行開始という事態が来てしまった。

しかしこれが、国側の一方的な「通告」という形だけで納まるとは思えない。岩国では市民が待望



していた「岩国錦帯橋空港」の開港という一大イベントが控えており、これはまたパッケージと言われる米軍再編施策の「アメとムチ」の一方の目玉施策である。

岩国市側は何としてもこの施策をスムーズに実現させ、岩国基地の暗い部分のイメージを払拭させ、オスプレイや艦載機移

転の問題を話題から遠ざけたい思惑がある。あと2ヵ月半後に迫った岩国錦帯橋空港の開港が、同じ岩国基地でのツーショットは絶対に避けたい、市長のこうした思いが「ともかくオスプレイは当面岩国基地から消えてしてほしい」という防衛省の思惑と一致した。だから、国は予定どおりオスプレイ

を岩国で飛行させ、沖縄へ送り込むというスケジュールを一方的に通告し幕引きを演じたという流れなのである。まもなくオスプレイは9月中旬に岩国基地で試験飛行を開始し、沖縄への配備と言う動きが予想される。

今回、オスプレイの日本持ち込みに際し防衛省は米国側の説明を全て鵜呑みにした数々の新しい事実を明らかにした。日本でのオスプレイ運用に向けて行ってきた「環境レビュー」では、今後オスプレイは普天間基地を拠点に岩国基地や「米軍キャンプ富士」などを使って日本全土で訓練飛行を展開するという。しかもその訓練の目玉は、全国に張り巡らされている低空飛行ルートを使った訓練である。

米軍の「低空飛行訓練」については私たち「リムピース」は15年以上前からその実態を明らかにし、告発を続けてきた事実がある。米軍の低空飛行が原因で起こった事故や事件は数限りなく、ダム湖の上に張られたワイヤーに引っ掛かり墜落した事故や最近では昨年3月の岡山県津山市で起こった土蔵倒壊事件などが記憶に新しい。

オスプレイは沖縄配備後は全国7本の低空飛行ルートで500回余の超低空飛行訓練を行うと言い、その訓練高度は東京タワーの高さの半分以下の150メートルであると言い、最近の国会答弁ではその高度は僅か60メートルという説明も出てきた。これだけ危険なオスプレイが、この上「超低空飛行」を国民の頭上で行うことなど到底認められないことであり、さすがに全国の県知事なども配備や訓練の実施反対を打ち出し始めた。この度の日米合同委員会で確認された高度150m以上での飛行の約束など、ずっと昔から米軍側が打ち出していた措置でありながらも新しい約束でも何でもない。そればかりか、日本の航空法も逸脱したこの飛行を、この法を所管する国土交通大臣は自らの権限を放棄してどのような容認条件を認めているのであろうか。オスプレイの低空飛行の際で安全に着陸できる仕組みが全く欠如したこうした訓練は絶対に認められない。

### ★難題に真っ正面から立ち向かう★

いまや「MV22オスプレイ」の配備は国民的な大反対運動へと発展しており、沖縄での県民集会が大きく盛り上がり、配備阻止への大きな力となっている。それだけに、岩国から沖縄へのオスプレイ送り込みを阻止する私たちの責任は重大である。

今岩国基地の駐機場にオスプレイ12機が勢ぞろいしている中で、私たちは手をこまねいているだけでは無い。岩国市民は3年前、爆音訴訟を立ち上げ全国の基地の街の仲間と頑張っているが、その654人の原告で取り組む岩国爆音訴訟団はこの爆音訴訟の提訴要件に「オスプレイのエンジン始動、試験飛行の差し止め」を一項加え司法の判断を求める行動を起こした。8月3日、山口地裁岩国支部に訴状を提出し今後の審理が注目されるが、さらにこの行動が全国に展開するオスプレイの低空飛行訓練を阻止するために、各地の爆音訴訟団が岩国の後に続いてオスプレイ



の配備阻止・飛行禁止を求める裁判行動が広がることを望む行動だ。

今回のオスプレイ配備では目下は「配備反対」の意思を明確にしている岩国市長へも、私たちは具体的な行動を求め要請行動を行っている。岩国市として「何を持って安全である」と確認できる基準を持っているのか、予め市民に明らかにしておくことを求め、市長の配備反対の意思を市民と共に共有するためには市としての姿勢を示した「懸垂幕」を市庁舎に掲げることや、市報などの広報で広くその意思を伝えること、大型映像装置やケーブルテレビなどで岩国市としての立場を広報することを提言した。

岩国では前述したが本年12月13日、全国で99番目、恐らく地方空港としては最後になる「岩国錦帯橋空港」が開港する。これは、国の米軍再編施策で「アメとムチ」のアメに当たる岩国基地を使った民間空港の開港という県・市の目玉施策だが、この超危険なオスプレイが飛ぶ岩国基地、海兵隊のジェット戦闘機や厚木基地からの空母艦載機が飛ぶことなど到底安心して利用できる存在ではない。

岩国基地の開港を、市長は「オスプレイとリンクしない。」と平静を装う。しかし日米政府が必死に進めるオスプレイの配備に反対を唱えながら、米軍に協力と譲歩をしてもらい飛行許可を受け運航する「岩国錦帯橋空港」が、正常な形でこのまま開港出来るのであろうか。

市長や県知事がこの12月13日という開港スケジュールに重なるオスプレイの展開を今後どのように棲み分けしていくのか、その成りは看過できない。多いにこうした状況を冷静に監視する必要があるし、又安易な解決策は望みたくない。

岩国市民は4回にわたる森本防衛大臣の来庁に際し、毎回岩国市役所玄関前で多くの仲間がその都度結集し抗議の行動を繰り広げた。19日の最後通告後は、市役所前の公園で「ハンガーストライキ」を始めた市民も現れた。

## ☆9月21日、オスプレイ岩国で初試験飛行☆

このように広範なオスプレイ阻止の行動が盛り上がっているにも関わらず、米軍は「10月には普天間基地への配備」という接受通報のスケジュールに併せ、9月21日から試験飛行を強行した。事前の予告通り、午前8時過ぎからエンジンをかけ、ホバーリングを開始し9時25分には本土で最初に岩国基地からオスプレイは離陸した。この日、オスプレイは瀬戸内海を南へ、市街地上空を違反飛行して下関沖のR134と呼ぶ訓練空域での試験飛行を強行した。

以後連日、2機編隊での試験飛行や27日には全国から90人余の参加者を募り体験搭乗を実施した。この森本防衛大臣の策動は、流石に岩国や沖縄の自治体首長の誰ひと

り搭乗に応じるものはおらず、実務職員とマスコミ関係者に留まって安全宣言作戦は不発に終わった。

オスプレイはこうして岩国基地での試験飛行のスケジュールをほぼ消化し、沖縄への配備という段階になったものの、折からの台風で9月中の沖縄配備は見送られることになった。その台風17号来襲の中、私たちは緊急の「オスプレイ本土初飛行抗議、9.30市民大集会」を岩国で開催した。集会は9月21日のオスプレイ本土初飛行に抗議、沖縄へは絶対に送り込ませない！という決意で1200人の市民が参加しもりあがった



### ☆オスプレイついに普天間基地に！☆

台風が去った10月1日、「オスプレイは早朝から飛び立ち沖縄へ・・・」という情報が入りこの日は午前5時ころから基地滑走路付近に我々も集結することになった。マスコミも早朝から中継車を出し、全国へ生放送で発信した。

待つこと数時間、午前8時過ぎに隊長機ら2機が飛び立ちすぐ帰還、抗議の声をあざ笑うかの様に9時頃から2機編隊が3組、6機のオスプレイが沖縄へ飛び立った。翌日も3機、合計9機が沖縄へ向かった後、岩国基地には3機のオスプレイが残された。

残ったオスプレイ、そのうちの4番機と5番機は一度の飛行も出来ず本国から送られる部品の交換が必要だとのこと、残る1番機は再整備が必要ということで、まさに欠陥機の証明をしてくれた様な姿だった。その後、4日・5日で何とか形式的な試験飛行を行い、何とか残る3機も6日には沖縄へ飛び立った。こうして12機のオスプレイは7月23日、岩国基地に陸揚げされ実に2ヶ月と2週間岩国基地に滞在、沖縄へ送り込まれた。当初森本防衛大臣の「10日から2週間」という要請をはるかに超えた岩国基地のオスプレイの顛末だ。

9月21日以降、やっと飛んだオスプレイは既に多くの県で日米合同委員会での確認したルールも守らず違反飛行を繰り返しているが、まだまださらに二転三転、オスプレイを巡る動きはあれこれ進展すると思われる。しかし私たちは手を抜くことなく決してあきらめず、必ずオスプレイはアメリカへ送り返すのだと、全国の仲間と連帯して頑張りぬくことを継続していく決意である。

